

ほのかに香るキンモクセイに、季節の移ろいを実感しています。
現在会員登録数 3,911 人さま。次号は 11 月 22 日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■
【1】お知らせ

●「むかしの紙芝居を楽しもう！」を開催します

大阪府立中央図書館 国際児童文学館との共催で、塩崎おとぎ紙芝居博物館
(三邑会)の紙芝居師による街頭紙芝居の公演を行います。

日 時：11月5日(土) 14:00~15:00

場 所：大阪府立中央図書館 2階 多目的室

定 員：40人(13:30から整理券配布) 参加費：無料

詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#04gaitokamishibai

● 講演と鼎談「国際児童文学館所蔵資料にみる絵本史にかがやく名著たち」

大阪府立中央図書館 国際児童文学館の企画展示(当財団協力)にあわせ、
絵本の歴史をたどり、展示資料のすばらしさを伝える講演会を開催します。

講 師：宮川健郎(当財団理事長)＝講演・鼎談

遠藤 純(当財団特別専門員)、土居安子(当財団総括専門員)＝鼎談

日 時：12月11日(日) 14:00~16:00

場 所：大阪府立中央図書館 2階 多目的室

定 員：60人 参加費：無料

※参加申込受付は11月11日(金)から → <http://www.iiclo.or.jp/>

●「第39回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

応募締切：10月31日(月)

詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#39boshu

●「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第36号の原稿募集

応募締切：10月31日(月)

詳細は → http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

- 寄付金を募集しています

※詳細は → http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html

※Syncable → <https://syncable.biz/associate/19800701/>

- YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html

- 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

【 2 】 コラム

《 1 》この本読んだ？ Yasuko's & Yuri's Talk

『マンガ化！世界文学 耽美とヒロイン』 萩尾望都・水野英子・牧美也子・美内すずえ・坂田靖子・文月今日子・山岸涼子・佐藤史生/著 図書の家（小西優里・卯月もよ・岸田志野）・山田英生/編 立東舎 2022年9月
対象年齢：小学校高学年以上

* 今回のゲストは小西優里（Yuri）さんです。

概要：女性マンガ家による「名作文学マンガ」1970～80年代黄金期の傑作を集成した作品集。目次は以下のとおり。萩尾望都×アンデルセン「白い鳥になった少女」、水野英子×グリム「サンドリヨン」、牧美也子×紫式部「花陽炎（源氏物語）」、美内すずえ×樋口一葉「たけくらべ」『ガラスの仮面』作中劇より、坂田靖子×ペロー「お妃と眠り姫」、文月今日子×ルイ・エモン「白き森の地に」、山岸涼子×グリム「ラプンツェル・ラプンツェル」、佐藤史生×ポーモン夫人「美女と野獣」、岩下朋世「解説」

Yasuko:全8作品のマンガはすべておもしろく、この一冊に少女マンガのおもしろさがギュッとつまっていると思いました。人物の描き方、コマ割りや、構図など、少女マンガの豊かな物語作りのありようが個性的な作家たちの絵で表現されています。

Yuri:それは意図して編集したのでうれしいです。実力のあるマンガ家たちの作品を一気に読むことのできる贅沢さを味わってもらえればと思います。

Yasuko:それからおもしろいのは、文学作品への多様なアプローチの仕方です。「白い鳥になった少女」は、鳥が男の子に自らの物語を語るという入子型構造になっており、「サンドリヨン」は原作に忠実にたっぷりと物語を語ります。いじわるなお姉さんがハトに目をくりぬかれるところまでしっかり描かれています。この作品は、シルエット画を使うなど、グリムの作品世界を視覚的に巧みに描いています。

Yuri:原作をいかに解釈したかがマンガで表現されていて興味深いと思います。『ガラスの仮面』の「たけくらべ」のエピソードは、主人公マヤが演劇として美登利を演じる場面を選んでいますが、この作品ではライバルの垂弓が同じ役を演じる場面もあり、全く別の美登利をみることができます。作者はマンガがいかに文学作品を解釈し得るかを実践的に示しています。

Yasuko:「お妃と眠り姫」の「眠り姫」の後日譚も、「ラプンツェル・ラプンツェル」の「ラプンツェル」を題材にしながらも現代の母娘の確執を象徴する

ような作品も、どれも斬新な切り口に驚かされました。

ところで、この作品のタイトルは「世界文学」となっていますが、この本を見ると、グリムやペローなど昔話もあり、タイトルでイメージしていた「世界」とはやや違いました。

Yuri: 実は、世界の文学をマンガ化した作品はたくさんあり、共編者の山田さんもたくさん集めていらっしゃると思います。今回は、その一部分を編んだ形になっています。

Yasuko: なるほど。そして「耽美とヒロイン」というタイトルのイメージと実際の読後感もやや異なりました。私の中で耽美（美にひたる）は、やや退廃的なイメージとつながりますが、このアンソロジーの作品は確かに美が描かれ、ヒロインが描かれていますが、とても健康的な美とでも言えるように思います。

Yuri: そうですね。見開きいっぱいのドレスや十二単衣の姿は見ようによっては、耽美のシーンととれるかもしれません。

Yasuko: こんなふうに申し上げたのは、ぜひ、文学作品の入門書としても、マンガの入口としても小中学校の学校図書館に収集して欲しいのですが、もしかしたら「耽美」というタイトルで勘違いされたら残念だと思うからです。

Yuri: ありがとうございます。ぜひ、目次を見たり、実際に読んでみたりして学校図書館などで選んでもらえたらうれしいです。

Yasuko: そして、「世界文学」シリーズになるように、続々とシリーズが刊行されればいいですね。心から楽しみにしています。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第86回「車」

機嫌よく生きること

ハーシュは、午前中は一つも仕事がなく、頭に籠をのせて町角にずっと立っていたのに、籠をおろして弁当を食べはじめたら、赤ひげの男が急にやってきます。——「おい、大急ぎだ。兵營の普請に足りなくなったからテレピン油を工場から買って来て呉れ。そら、あそこにある車をひいてね、四缶だけ、この名刺を持って行くんだ。」男は工場への道順を教え、ハーシュは車を引いて出かけますが、この仕事は、なかなかたいへんだったのです。

青い松林のそばまで来ると、水色の水兵服を着た子どもがハーシュの車を見えています。あんまり見ているから、ハーシュが笑うと、にわかに子どもが叫びます。——「僕、車へのせてってお呉れ。」「この車、がたがたしますよ。よござんすか。坊ちゃん。」ハーシュは、子どもをのせてやりますが、道がだんだんせまくなります。あんまり車ががたがたするので調べると、車輪のくさびが1本抜けていました。

ハーシュは、縄をさがして車輪をしばろうとしますが、縄を見つけて、ひろおうとすると、高い女の声がします。——「何する、持って行くな、ひとのもの。」怒るのはもったもだと思ったので、抜けたくさびをさがして、おおばこの中に落ちているのを見つけました。

ハーシュは、子どもをのせたまま、その先の浅い小川もわたります。工場が見えてきました。——「兵營からテレピン油を取りに来ました。」

ハーシュがのせてきたのは、工場の技師長の子どもでした。技師長が「おい、

どこへ行ったんだ。」というと、子どもがこたえます。

〈「どうも車が遅くてね。」

「それはいかんな。」技師長がわらいました。ハーシュもわらいました。ほんとうに面白かった、こんなに遊びながら仕事になるんなら、今日午前中仕事がなくていやな気がしたののうめ合わせにはたくさんだとハーシュは思いました。〉

これが、しめくくりです。ハーシュは、仕事があれば、それが多少困難でも楽しく体を動かせるようです。機嫌のよい明るさに満ちた作品で、三神けい子がハーシュを「賢治童話の主人公の中で、今までいつでも私にとって忘れ得ぬ人」としているのも、うなずけます。三神は、「それは賢治のけわしくて不安定な一生のうちに、すがすがしいまでの明るさとやすらぎを垣間見たような気がしたためである。」（「作品研究 「車」—その明るさについて—」1972年）というのです。（馬車別当）

（本文の引用は、筑摩書房刊『宮沢賢治コレクション5 なめとこ山の熊』によりました。）

《3》子どもの本の珠玉のことば 40

あしたのあたしは
あたらしいあたし
あたしらしいあたし

（「あした」『あしたのあたしはあたらしいあたし』 石津ちひろ/詩 大橋歩/絵 理論社 2002年10月 p.6-7）

10月8日（土）に石津ちひろさんをお招きして講演会を行いました（講演会「ことばの楽しみ、絵本の楽しみ」場所：大阪府立中央図書館 主催：学校図書研究会「気になる本を読む会」・当財団）。講演会は、みんなでこの詩を声に出して読むところから始まりました。

「あ」の音が響くこの詩を声に出すだけで、私を含めてみんなの顔がゆるんでいきます。講演会で、石津さんは自作をたくさん読んでくださり、作品に対する石津さんの愛が伝わりました。また、参加者が石津さんの作品を読む時間もあり、声を聞くことによって、詩の多様な解釈の可能性を考えることができました。そして、声を出して日本語の響きを楽しむことがこんなに楽しいことだったんだと改めて感じさせてくれる時間でした。

引用した「あした」は2連からなり、第二連は、引用した第一連の「あした」が「あたし」に、「あたし」が「あした」に入れ替わります。この詩には、「した」を「たし」に入れ替えることで、違う意味になる驚きがあります。「あした」は未来への希望につながり、「あたし」「あたしらしい」という言葉が、自己肯定につながります。

この本が出版された時、詩の雰囲気と装丁の美しさが合致した美しい本として強く心に残っていました。詩はほとんどひらがなだけで作られ、そのことによって、音や文字の形が強く意識されます。「あした」「そらのコップ」「公

園で」「ことばあそび」の4章からなり、時間、空想、場所、言葉という物語を楽しみ、生きていくうえで大切な概念が表現されており、そこにはいつも「あたし」がいます。そして、すべての詩に「ことばあそび」の要素があって自由で解放的な気分してくれます。

講演会をきっかけに詩集を改めて読みなおし、今の子どもたちにぜひ、楽しんでもらいたいと思いました。(Y)

《4》 行って来ました！

あべのハルカス美術館で11月20日まで開催されている「椋図かずお大美術展」に行ってきました。この展覧会では、漫画家で芸術家でもある椋図かずおの新作の連作絵画101点と、3組の現代アーティストによるインスタレーション作品が展示されています。

最初に『漂流教室』のさまざまなコマが並べられていて、一気に椋図ワールドへ入り込みます。コマの絵の上に赤い四角がかぶせられていて、そこには、「学校がない！！」「宇宙の歪み」などの文字が白抜きで見えてどきどきします。

そこを通りに抜けると、『わたしは真悟』の扉絵のスライドショーが展示されています。5つの長方形の窓に、さまざまな扉絵が、スライドとして映し出され、窓の中の異世界に入り込む感覚になります。その奥には、アートユニット、エキソニモによる『わたしは真悟』をテーマにした立体作品。コードが積み上げられたところに設置されたデジタルの画面で『わたしは真悟』の場面が映し出され、背景には天王寺のビルの景色が見えます。

そして、この展覧会の目玉である『ZOKU-SHINGO ちいさなロボット シング美術館』です。1980年代に描かれた『わたしは真悟』の続編で、27年ぶりの新作とのこと。101枚の絵には、1枚ずつに文がついていて、101枚で一つの物語になっています。とにかく、想像もつかないような色使いに脳みそを攪拌されたような気になります。街頭紙芝居の色を思い出しました。一枚ずつ、見れば見るほど発見があり、骸骨のような、ムクの「叫び」のような頭の2人の子どものロボットも見ているうちに愛着がわいてきます。ストーリーも怖くて不思議です。その奥の暗い部屋には、101点の素描が展示されており、照明や部屋の中の立体作品(富安由真 Shadowings)などからモノクロならではの怖い雰囲気を楽しみました。

最後は『14歳』の紹介と、『14歳』をテーマにした鴻池朋子によるドローイングと映像とオブジェがあり、「子どもとは何か」という問いをもらった気持ちになりました。私は『洗礼』というホラーマンガが大好きでしたが、『わたしは真悟』は未読でした。これをきっかけにぜひ読みたいと思いました。(K)

あべのハルカス美術館 <https://www.aham.jp/>

■ ----- ■
【3】全国のイベント紹介
■ ----- ■

● 英語圏児童文学会 第52回研究大会
会期：11月12日(土)～13日(日)

会場：奈良女子大学（対面開催） 参加費：有料 ※要申し込み

内容：2つのシンポジウムと8本の研究発表

・11月12日（土）14:20～16:40

<シンポジウムⅠ> 雑誌 Boy's Own Paper とコナン・ドイル

登壇者：中尾真理（ゲスト講師・奈良大学名誉教授）、ほか3名

・11月13日（日）14:20～16:40

<シンポジウムⅡ> 児童文学と自然環境

登壇者：大竹英洋（ゲスト講師・写真家）、ほか4名

主催：英語圏児童文学学会

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント

■ ----- ■
今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『マンガ化！世界文学耽美とヒロイン』をプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ N0.146 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は11月10日（木）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |
— | — | — | — | — | — | — | — | — |

世の中全体が動きはじめた感じのするこのごろ。通勤電車は以前のように混み出しました。が、休日の車内の家族連れ笑顔や、若いカップルの姿を目にすると、ほっとします。コロナとつきあいながら、楽しみを見つけて毎日を過ごしたいと思います。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
